

北信地域における頭頸部以外の 腺様嚢胞癌の罹患と治療の実態

瀧口 知彌、西野 善一

金沢医科大学医学部公衆衛生学

連絡先：

ttakiguc@kanazawa-med.ac.jp

【目的】腺様嚢胞癌 (adenoid cystic carcinoma) は頭頸部の主に唾液腺でみられる悪性腫瘍である。しかし、頭頸部以外の部位における罹患の実態に関するわが国での報告は少ない。本研究では北信地域における頭頸部以外の腺様嚢胞癌の罹患と治療の実態について報告する。

【方法】北信4県（富山、石川、福井、長野）のがん診療連携拠点病院等22施設の院内がん登録データより、2010年から2017年に診断された悪性新生物症例のうち、ICD-O-3の形態コードが82003のもので、かつ自施設で初回治療が施行されたものを抽出した。頭頸部以外の症例の年齢分布、進展度、治療法について詳細部位別に解析を行った。

【結果】2010年から2017年に診断された頭頸部以外の腺様嚢胞癌の症例数は23例であり、男女別では女性が17例と男性よりも多かった。部位別では女性乳房は9例、気管支・肺は6例（うち主気管支1例）、気管と食道がそれぞれ3例、膵臓と子宮頸部がそれぞれ1例であった（表1）。

年齢構成は表2に示すように60歳以上が4分の3を占め、診断時年齢の中央値は66歳であり頭頸部との差を認めなかった。進展度は限局が11例、領域が7例、遠隔転移が4例であり限局と遠隔転移の割合が頭頸部に比べて高かった（表3）。治療方法は手術が実施されたものが16例、放射線療法が実施されたものが11例、化学療法が実施されたものが9例であった（表4）。気管および気管支・肺では手術が実施されず、化学療法、放射線療法が実施された割合が高かった。

【結論】北信地域において頭頸部以外の腺様嚢胞癌の原発部位は女性乳房がもっとも多く、次いで気管支・肺であった。進展度は頭頸部に比べて限局と遠隔転移の割合が高かった。また、治療方法は頭頸部に比べて気管および気管支・肺で非手術例の割合が高かった。

表1：原発部位の詳細

	ICD-O-3 局在 コード	男		女		全体	
		(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)
頭頸部以外計		6	8.2	17	21.8	23	15.2
食道	C15	2	2.7	1	1.3	3	2.0
膵臓	C25	1	1.4	0	0.0	1	0.7
気管	C33	1	1.4	2	2.6	3	2.0
気管支・肺	C34	2	2.7	4	5.1	6	4.0
女性乳房	C50	0	0.0	9	11.5	9	6.0
子宮頸	C53	0	0.0	1	1.3	1	0.7
原発部位不明	C809	2	2.7	1	1.3	3	2.0
(頭頸部)		65	89.0	60	76.9	125	82.8

表2：年齢階級ごとの罹患数

	頭頸部以外 (N=23)		(頭頸部) (N=125)	
	(N)	(%)	(N)	(%)
30歳未満	1	4.3	1	0.8
30-39	1	4.3	5	4.0
40-49	4	17.4	13	10.4
50-59	0	0.0	25	20.0
60-69	6	26.1	35	28.0
70-79	4	17.4	36	28.8
80歳以上	7	30.4	10	8.0

表3：進展度の分布

	限局		領域		遠隔転移		不明		計	
	(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)
食道	2	66.7	0	0.0	1	33.3	0	0.0	3	100.0
膵臓	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	1	100.0
気管	1	33.3	2	66.7	0	0.0	0	0.0	3	100.0
気管支・肺	3	50.0	2	33.3	1	16.7	0	0.0	6	100.0
女性乳房	5	55.6	2	22.2	1	11.1	1	11.1	9	100.0
子宮頸	0	0.0	0	0.0	1	100.0	0	0.0	1	100.0
頭頸部以外計	11	47.8	7	30.4	4	17.4	1	4.3	23	100.0
(頭頸部)	42	33.6	54	43.2	11	8.8	18	14.4	125	100.0

表4：詳細部位別の治療方法

	食道		膵臓		気管		気管支・肺		女性乳房		子宮頸		頭頸部以外計		(頭頸部)	
	(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)	(N)	(%)
手術のみ	2	66.7	0	0.0	0	0.0	1	16.7	4	44.4	0	0.0	7	30.4	41	32.8
手術+放射線治療	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	16.7	2	22.2	1	100.0	4	17.4	41	32.8
手術+放射線治療+ 化学療法	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	2	22.2	0	0.0	3	13.0	14	11.2
放射線治療のみ	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.3	4	3.2
放射線治療+化学療法	0	0.0	0	0.0	0	0.0	3	50.0	0	0.0	0	0.0	3	13.0	9	7.2
化学療法のみ	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	11.1	0	0.0	2	8.7	1	0.8
手術+化学療法	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	16.7	0	0.0	0	0.0	1	4.3	4	3.2
手術+その他の治療法	0	0.0	1	100.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.3	3	2.4
治療なし	0	0.0	0	0.0	1	33.3	0	0.0	0	0.0	0	0.0	1	4.3	8	6.4
計	3	100.0	1	100.0	3	100.0	6	100.0	9	100.0	1	100.0	23	100.0	125	100.0

(利益相反) 本研究に申告すべきCOIはない